編集後記

2022年は，ロシアによるウクライナ侵攻により激動の年となりました。同侵攻は，欧州や日本のエネルギー不安･価格高騰や世界の食料供給へも多大な影響を与え，コロナ禍に伴う景気低迷からの脱却を目指す世界経済への打撃となりました。世界では民主主義国家と強権主義国家への分断が進み，民主主義国家内でもアメリカ合衆国を初めとして二極化による分断が顕著になった年でもありました。また，気候の高温と低温や多雨と少雨が偏在化する傾向が顕著に表れた年でもありました。

国内では，日本近海で発生･上陸した台風15号が静岡県内に多くの土砂災害をもたらしました。新型コロナでは年内に3回の感染ピークが見られましたが，2023年の大型連休明けには感染法上の分類が5類に引き下げられ，3年にわたり経済や生活に大きな障害をもたらした災禍の終息に向けて動きだしつつあります。

土と岩第71号は，このような二極化や予測不能な多様化が進む情勢下で，持続可能な社会の形成を見据えた構成となるように編集しました。

特集では，女性活躍をテーマに，働き方改革に向けた女性達の取組についての実践紹介を企画しました。寄稿者の皆さまからは，多様な働き方への取組や皆様の目指す姿，将来展望について，率直なご意見をいただきました。本稿が，読者様の持続可能性に向けた改革･改善への転機，推進に寄与するものとなることを願います。

特別寄稿では，一般財団法人 地盤品質判定士会 顧問の利藤　房雄様からご寄稿いただきました。2021年の熱海土石流災害を機に進んだ盛土規制法について，法律制定の背景から業務遂行での留意点などについて解説していただきました。

散文では，特に若手技術者を念頭に，私達，地質調査業に携わる者がどのように社会に貢献できるのかをご紹介していただくことを目的に，中部地方における地震活動をテーマとしてご寄稿いただきました。陸域については，国立研究開発法人 産業総合技術研究所 地質情報研究部門 平野地質研究グループ主任研究員の小松原　琢様に，海域については静岡大学 理学部 地球科学教室 教授兼静岡大学 防災総合センター センター長の北村　晃寿様にご寄稿いただきました。ご両名様共に，多忙な研究の合間を割いていただき，寄稿依頼の主旨に沿って，膨大な知見を整理･考察した成果の紹介を通じて，社会に災害の危険性を知らせる，地質調査に携わる者としての役割に気づきを与えていただくためのエール文を贈っていただきました。

中部地整と本協会との意見交換会は対面式（一部WEB）で開催され，真摯かつ活発な意見交換が行われました。この意見交換会の模様も本誌の中で紹介させていただきました。

「中部ミニフォーラム」の報告では優秀論文や参加報告を掲載しました。「常設委員会報告」と「県支部活動報告」では，当協会の活動状況を簡潔に整理しました。これらの報告が，皆様からの改善･改革へのご意見の機会となり，協会発展の礎となれば幸いです。

最後に，本号への寄稿や連絡会･報告に御協力いただきました方々に改めて感謝申し上げます。また，誌面編集の都合により各執筆者様からの大変貴重な原稿を多少編集させていただいたことを，お詫び申し上げます。

編集委員会